

指定管理者制度導入施設の運営状況（令和3年度）

1. 施設名等

施設名	大分県社会福祉介護研修センター	所在地	〒870-0161 大分市明野東3丁目4番1号
		電話番号	097-552-6888
		ホームページ	https://www.okk.or.jp

2. 指定管理者および県の所管部課（窓口）

指定管理者	名称 所在地 指定期間	社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分市大津町2丁目1番4号 令和3年4月1日～令和8年3月31日	県の所管部課 (局・室)	福祉保健部 高齢者福祉課 TEL：097-506-2692
-------	-------------------	--	-----------------	----------------------------------

3. 施設の概要

設置年月日	平成5年11月12日
設置根拠	大分県社会福祉介護研修センターの設置及び管理に関する条例
設置目的	社会福祉事業に従事する者に対する研修、介護に関する研修、福祉用具の展示等を行うことにより、社会福祉事業従事者の資質の向上と県民の介護に対する理解と参加の促進を図り、もって県民の福祉の増進に資する。
事業内容	①社会福祉事業従事者を対象とする研修 ②介護に関する研修 ③高齢者及び介護者の総合相談 ④福祉人材に係る無料職業紹介 ⑤福祉機器等の展示及び情報提供 ⑥①～⑤のほか、社会福祉介護研修センターの目的を達するために必要な事業
施設内容	大ホール[200人室]、小ホール[100人室]、研修室、図書情報室、調理実習室、和室実習室、トイレ実習室、ベット実習室、入浴実習室、相談室、休憩室・食堂、福祉用具展示場、高齢者総合相談センター、福祉人材センター（福祉人材無料職業紹介所）、住宅改造モデル展示場、災害物資備蓄倉庫
使用料等	[該当なし]
閉館日	①月曜日、②国民の祝日（その日が土曜日又は日曜日にあたる時を除く。） ③12月29日から翌年の1月3日までの日

4. 目標指標の達成状況

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
利用者満足度 評価レベル4.5(H30～R2) 評価レベル4.6(R3～) (5段階評価)	平成30年度	4.50	4.59	102.0%
	令和元年度	4.50	4.61	102.4%
	令和2年度	4.50	4.60	102.2%
	令和3年度	4.60	4.62	100.4%
利用者数 延べ利用者数 49,000人以上	平成30年度	49,000	49,525	101.1%
	令和元年度	49,000	49,324	100.7%
	令和2年度	49,000	24,790	50.6%
	令和3年度	49,000	24,915	50.8%

5. 施設の利用状況

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
	平成30年度	2,078	3,638	4,570	4,064	4,270	5,234		
	令和元年度	2,225	2,763	3,710	3,948	2,934	4,904		
	令和2年度	229	508	2,252	2,887	2,336	2,791		
	令和3年度	1,073	1,323	2,162	3,144	2,479	1,569	累計	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
	平成30年度	6,359	7,074	4,265	3,075	2,842	2,056		49,525
	令和元年度	7,186	11,007	4,711	2,612	2,910	414		49,324
	令和2年度	3,896	3,315	2,115	1,743	1,478	1,240		24,790
	令和3年度	3,387	3,627	2,662	1,086	1,062	1,341		24,915

6. 利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	<p>①全研修会の受講者、②福祉人材センターの来館者、③福祉用具展示場・高齢者総合相談の来館者にアンケートを実施</p> <p>アンケート内容:内容等にかかる5段階評価及び施設・職員対応等に対する意見記入</p> <p>①対象研修数:52 対象者数:14,661名 回答者数:13,642名 回収率:93.0%</p> <p>②対象者数:1,179名 回答者数:41名 回収率:3.5%</p> <p>③対象者数:649名 回答者数:274名 回収率:42.2%</p>
	実施結果	<p>①研修会のアンケートの評価レベルは、4.62と目標数値を上回った。</p> <p>・最高:4.87 最低:4.02 平均4.62</p> <p>・アンケート調査を分析し、受講者の要望等を次年度以降の研修の企画等に反映させてきた結果テーマ設定、講師選定ともに受講者の評価は高く、平均値は高水準で推移している。</p> <p>・意見についても、施設の整備・維持、職員の対応、研修内容、講師選定等に対し良好な評価を得ている。</p> <p>②福祉人材センター 最高:5.00 最低:5.00 平均5.00</p> <p>③福祉用具展示場・高齢者総合相談 最高:5.00 最低:4.82 平均4.97</p> <p>*月ごとの評価数値(月平均)の中で最高、最低を記載している。</p>
利用者等からの主な意見・要望・苦情		左の対応状況
音声が届切れる、聞き取りにくい、資料を事前に送ってほしい等のWeb研修に対する苦情		音声に留意すること、資料は早めにメールすること、不具合はチャットで事務局への連絡をお願いするなど改善に努める
冷房が効きすぎて寒い(効かず暑い)、暖房が効かず寒いなど空調に対する苦情		こまめな温度調節に努める。膝掛けも準備している。新型コロナウイルス感染防止のため定期的に換気を行っている影響もある
(集合研修で)マイクの音声が途切れることが多く、聞き取りづらいという苦情		視聴覚設備について、業者による定期的な保守点検を実施しているほか、適宜不具合に応じ、使用方法などの説明を受け、改善に努める
仕事の都合上、日曜日の教室があればありがたいとの要望		いくつかの講座は日曜日に実施しているが、来年度の計画立案時に検討させていただく。

7. サービス向上に係る主な取組内容

サービス提供体制の強化	<p>①リハビリ専門職(PT等)の複数配置により、専門的な知識技術の普及啓発体制を強化した。特に高齢者総合相談業務については、これにより、増加する福祉用具等の相談や試用に対応し、土日についても専門職員(リハ)による相談対応が可能となった。また、新たに言語聴覚士による専門相談日や建築士の定期的な相談会を開催するなど、県民の在宅生活・介護の支援を強化した。</p> <p>②福祉用具展示場では、企業の協力を得て、最新の用具や、介護ロボット等を展示するほか、隣接する住宅改造モデル展示場については、古くなった畳を入替え、照明を明るくするなど、気軽にいつでも見学や体験しやすい雰囲気に変えるとともに、Wi-Fiを設置し、見学者の利便性を高めた。</p> <p>③すべての研修会の受講者、高齢者総合相談センター・福祉人材センター来所者、またホームページ上でもアンケート調査を実施し、さらに各階には「ご意見承り箱」を設置するなど、幅広く利用者の声を聞いている。利用者の意見・要望は、毎月開催する所内会議で検討し、事案に応じ対応できるものは速やかに実施するとともに、意見等に対する回答書を作成し、月毎にまとめて1階階段横の掲示場所にファイルを備え付けている。</p> <p>④多くのニーズがある認知症高齢者を地域で支えるための「認知症関連講座」を拡充するとともに、「介護技術基礎研修」については、これまで一般県民を対象にしていたものを、施設職員に対しても自主研修事業として実施し、介護技術の向上を図った。また、人材確保に向け、介護の仕事に関心のある方などが、勤務終了後等に参加しやすいよう、夕方から夜間にかけてのセミナーやYouTubeによるLIVE配信も実施した。</p> <p>⑤求職者の求職活動の参考資料として、「社会福祉施設ガイドブック」を作成・配布した。また福祉人材センター専用ホームページを開設し事業所の最新情報などを発信するとともに、福祉・介護職場の魅力を紹介するためのDVDを作成し、今後、小中高校等の生徒や教師などへ情報提供することとした。</p>
-------------	---

イベント等の充実	① 福祉のしごと就職フェア ・夏フェア(R3年8月7・8日) 事業所のPRをYouTubeによりLIVE配信…LIVE事業所:30事業所 事前申込者:76名 アクセス数:746件 ・春フェア(R4年2月6日)…新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止(利用者のニーズにより対面式を計画していた)
	② センターまつり&げんきフェア2021…中止 (大分県保健医療団体協議会と共催予定であったが、協議会がコロナ感染状況を考慮して開催を辞退したため)
	③ ノーリフティングケアマネジメント研修の開催[6月16日(水)] 介護する側・される側双方において、安全で安心なノーリフティングケア(持ち上げない・抱えない・引きずらないケア)の普及をサポートし、職員の離職防止・定着促進や生産性の向上を図る。 講演 管理者等のトップの意識改革、ノーリフティングケアの導入手順について 講師 一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク 代表理事 下元 佳子 参加者数 110名

8. 管理に係る収支の状況

(単位:千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収入額(A)		204,812	209,895	197,566	208,608
内 訳	県からの委託料	152,458	153,926	155,266	164,483
	利用料金(別途委託料)	38,071	47,463	37,729	40,002
	事業収入(大分市等)	354	204	204	200
	自主事業収入(資料代)	8,909	8,302	4,367	3,923
	その他(繰入金)	5,020	0	0	0
支出額(B)		204,812	209,895	197,566	208,608
内 訳	人件費	104,030	103,711	101,152	116,505
	維持管理費	31,814	33,538	31,408	33,051
	事業費(指定管理)	34,404	35,947	35,024	33,145
	自主事業費(別途委託)	34,564	36,699	29,982	25,907
収支差額(A-B)		0	0	0	0

9. 施設使用料等の収入状況

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成30年度							
	令和元年度							
	令和2年度							
	令和3年度							
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成30年度							0
	令和元年度							0
	令和2年度							0
	令和3年度							0

10. 指定管理者の管理体制

施設管理体制	<p>所長 一副所長（嘱託）（プロパー）</p> <ul style="list-style-type: none"> 総務・人材部長（兼副所長） 部員 12（プロパー 1 嘱託 11） 介護研修・総合相談部長（プロパー） 部員 8（プロパー 1 嘱託 6 業務援助 1） 社会福祉研修部長（兼所長） 部員 7（プロパー 4 嘱託 3） 						
	職員数 (R3.4.1)	正規職員 8	パート	嘱託 21	他社から派遣 1	臨時職員	その他

11. 適正な管理運営に係る主な取組内容

職員の資質・能力の向上	<p>① OJTにより、職員の接遇向上に努めた。</p> <p>② 利用者アンケートを反映した研修企画や研修講師との打合せ会議、研修企画協議など、職員の研修企画力向上に努めた。</p> <p>③ 学会・関係機関等が開催する専門研修へ積極的に参加し、専門知識及びスキルを深めた。</p> <p>(Webによる参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉人材情報システム研修会(Web研修) ・福祉人材センター業務・法令研修会(Web研修) ・全国福祉人材センター全国連絡会議(Web会議) ・九州ブロック福祉人材・社会福祉研修実施機関連絡会議(鹿児島市:Web協議) ・福祉人材センター・バンク基幹職員会議(Web会議) ・全国福祉用具相談・研修機関協議会(Web会議) ・高齢者疑似体験インストラクター養成研修会(Web研修) ・令和3年度九州ブロック介護実習・普及センター代表者及び担当者会議(Web) ・介護ロボットが切り開く新しい介護～介護ロボット・ICT最前線(Web) ・全国介護ロボットフォーラム(Web) ・東九州メディカルバレー構想推進大会(Web) ・医療関連産業参入促進セミナー(Web) ・CARE KARTE 人材不足を打開するAI/ICT導入へのポイント(Web) ・マッスルスーツ(レイボエクソスケルト)Webセミナー ・理学療法士協会 介護予防従事者研修 (Web) ・理学療法士協会 地域包括ケアシステム研修(Web) <p>(開催地参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際福祉機器展2021(東京都) ・北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター視察(北九州市) ・西日本国際福祉機器展(北九州市) ・福祉用具専門相談員指定講習会(大分市) ・暮らしを楽しくする家づくり(KTプラン)セミナー(大分市)
防災に関する研修・訓練	<p>① 年度当初に、「施設管理マニュアル」・「事故等対応マニュアル」・「ウイルス感染症マニュアル」の周知徹底を図るための職員研修を実施するとともに、平常時からの危機管理意識の保持に努めた。</p> <p>② 消防計画を職員に周知し、自衛消防隊設置時の各自の任務を確認するとともに、総合消防訓練(年1回)を開催し、緊急の際には、全職員が適切な対応ができる体制とした。また1月下旬に発生した震度5強の地震の際はラインワークス等を活用し、職員全員の安否確認を行った。</p> <p>③ 県社協、研修センターの所属長で構成する部所長会議で災害発生時の行動や災害ボランティアセンター設置・運営について確認するとともに、令和4年度策定を目指し、事業継続計画(BCP)の検討・協議を行った。</p>
安全対策等	<p>① 危険物の保管箇所については、施錠による厳重な管理を行うとともに、防犯・環境美化のため、日常的な館内の見回りを行った。</p> <p>② 危険箇所の早期発見のため、施設や設備等の日常点検を行うとともに、破損や故障箇所等について速やかに修繕を行った。特に実習に使用する備品については、実習前点検も行い、事故の未然防止に努めた。</p> <p>③ エレベーター、自動ドア等の施設設備については、専門業者による定期保守点検を行った。</p> <p>④ 非常用予備発電装置の始動用バッテリーを交換し、非常時に備えた。</p>